南 監 查 号 令和7年8月27日

南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美南幌町監査委員 加 藤 真 悟

令和6年度南幌町下水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法(昭和27年法律第292号)第30条第2項の規定により、審査に付された令和6年度南幌町下水道事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和6年度南幌町下水道事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決 算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和6年度南幌町下水道事業決算報告書
- (2) 令和6年度南幌町下水道事業損益計算書
- (3) 令和6年度南幌町下水道事業貸借対照表
- (4) 令和6年度南幌町下水道事業剰余金計算書
- (5) 令和6年度南幌町下水道事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

期間 令和7年7月30日(1日間) 場所 南幌町役場監査委員室

3 審査の手続き

決算の審査にあたっては、南幌町監査基準に基づき、町長から審査に付された令和6年度下水道事業会計決算報告書等が関係法令に定める様式を基準として調製がされているか審査を行った。

審査の方法は、関係所管課等に決算に係る資料等の提出を求め、決算諸表の計数と会計帳票等の照合・検査のほか、関係所管課等への決算概況の聴取等の審査手続きにより、 予算執行が適正かつ効率的に実施されているかを主眼に実施した。

また、証書類の検証、現金・預金の残高の確認等については、地方自治法第199条 及び第235条の2の規定に基づき、定例監査及び例月出納検査において実施したので、 その結果を踏まえて審査した。

なお、審査の内容は千円単位の四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1)業務の概要について

【表 1 業務量】 (単位:人)

区分	令和6年度	令和5年度	対前年	度比	備	考
区分	7和10年度	7410年度	増減数	増減率	7月	与
行政区域内人口	8,036 人	7, 838 人	198 人	102.5%		
処 理 人 口	6,640 人	6, 385 人	255 人	104.0%	下水道農集	6, 198 人 442 人
水洗便所設置済人口	6, 623 人	6, 368 人	255 人	104.0%	下水道農集	6, 187 人 436 人
普 及 率	82.6%	81.5%	1.1%	101.3%	下水道農集	77. 1% 5. 5%
水洗化率	99.7%	99.7%	0.0%	100.0%	下水道農集	99. 8% 98. 6%
年間総処理水量	667, 920 m³	675, 929 m³	∆8, 009 m³	98.8%	下水道 農 集	630, 740 m ³ 37, 180 m ³
年間有収水量	542, 680 m³	542, 984 m³	∆304 m³	99.9%	下水道 農 集	513, 175 m³ 29, 505 m³

処理人口は、6,640人と前年度6,385人を255人上回り、前年度比4.0%の増となった。 また、普及率は82.6%と前年度81.5%を1.1%上回り、前年度比1.3%の増となった。

(2) 収益的収入及び支出について

【才	長2 比較収支計算	書】				(単	位:千円)		
			令和6年度						
	科目	マ <i>佐</i> エロ <i>佐</i> 五	<i>油 </i>)+.4>++	前年度	E 対比	令和5年度		
		予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実 績		
営業	下水道使用料	114, 522	113, 638	99.2%	_	_	_		
営業収益	合 計	114, 522	113, 638	99. 2%	_	_	_		
	他会計補助金	84, 910	84, 910	100.0%	_	_			
労	負 担 金	5, 120	5, 121	100.0%		_	_		
営業外収益	長期前受金戻入	99, 533	99, 535	100.0%	_	_			
収	消費税及び地方消費税還付金	2, 518	10, 768	427.6%		_	_		
盆	雑収益	2	10	500.0%	_	_	_		
	合 計	192, 083	200, 344	104.3%	_		_		
特別利益	過年度損益修正益	7, 980	8, 026	100.6%	_		_		
利 益	合 計	7, 980	8, 026	100.6%	_	_	_		
	収益合計	314, 585	322, 008	102.4%	_	_			
	管 渠 費	11,042	10, 469	94.8%		_	_		
	処理場管理費	10, 714	9, 776	91.2%	_	_	_		
営業費用	ポンプ場費	22, 924	22, 068	96.3%	_	_			
費用	総係費	80, 017	76, 095	95. 1%	_	_	_		
	減価償却費	196, 986	196, 985	100.0%	_		_		
	合 計	321, 683	315, 393	98.0%	_		_		
営業外	支払い利息及び企業債取扱諸費	7, 122	7, 120	100.0%	_	_	_		
未外費用	合 計	7, 122	7, 120	100.0%	_	_	_		
特別損失	その他特別損失	50	6	12.0%					
損失	合 計	50	6	12.0%			_		
	費用合計	328, 855	322, 519	98. 1%			_		

収益合計は、322,008 千円と予算現額 314,585 千円に対し 7,423 千円、達成率 102.4% となった。

収益の内訳は、営業収益では113,638千円と予算現額114,522千円に対し△884千円、 達成率 99.2%、営業外収益では 200,344 千円と予算現額 192,083 千円に対し 8,261 千 円、達成率 104.3%、特別利益では 8,026 千円と予算現額 7,980 千円に対し 46 千円、達 成率 100.6%となった。

費用合計は、322,519千円と予算現額328,855千円に対して△6,336千円、達成率98.1%

となった。

費用の内訳は、営業費用では 315,393 千円と予算現額 321,683 千円に対して \triangle 6,290 千円、達成率 98.0%、営業外費用 7,120 千円と予算現額 7,122 千円に対して \triangle 2 千円、達成率 100%、特別損失 6 千円と予算現額 50 千円に対して \triangle 44 千円、達成率 12.0%となった。

(単位・千円)

(3) 資本的収支について

【表3 資本的収支の明細】

140	. 只 .	トロソイスノ	(-	科型・1 口/				
				令和6年度	۸ ۲	۸ -		
	区	分		油 答 堀	前年原	度対比	令和 5 年度	令和 4 年度
				決 算 額	増減額	増減率	3 平皮	4 平皮
	企	業	債	176, 800	_	_	_	_
u to	他会計出資金		966			_		
収	国庫補助金		113, 028	_	_	_	_	
入	受益者負担金及び分担金		0	_	_	_	_	
	収入合計		290, 794	_	_	_	_	
-1-	建設改良費		318, 308	_	_	_	_	
支山	企業債償還金		55, 240					
出	支	出合	計	373, 548	_	_	_	_
	収3	支差		△ 82, 754	_			_

資本的収入は企業債発行 176,800 千円のほか、一般会計からの建設改良費不足額 966 千円を出資金として、さらに下水道事業における国庫補助金として 113,028 千円を受け 入れ、合計 290,794 千円となった。

資本的支出では、固定資産の取得に建設改良費として合計 318,308 千円及び企業債償 還金 55,240 千円、合計 373,548 千円を支出している。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△82,754 千円となり、資本的収入額 が資本的支出額に不足する額82,754 千円は、当年度分損益勘定留保資金で補填した。

(4)損益計算書について

【表4 損益計算書(収益)】

(単位:千円・税抜き)

			令和6年	令和5年度			
	区 分	決 算 額	構成比	前年度	対比		.l.l (1 -1 #+
		決算額	(特別人)し	増減額	増減率	決 算 額	構成比
営業収益	下水道使用料	103, 328	34. 3%		_		_
収益	合 計	103, 328	34. 3%	_	_	_	_
	他会計補助金	84, 910	28. 2%		_		_
営業	負 担 金	5, 121	1. 7%	_	_	_	_
営業外収益	長期前受金戻入	99, 535	33. 1%	_	_		_
益	雑 収 入	11	0.0%	_	_		_
	合 計	189, 577	63.0%	_	_		_
特別	過年度損益修正益	8, 026	2. 7%	_	_	_	_
特別利益	合 計	8, 026	2. 7%	_	_	_	_
	合 計	300, 931	100.0%		_		_

【表5 損益計算書(支出)】

(単位:千円・税抜き)

110	7 快速可弄音 (人	ш/1				(去位・111	17L1/X C /
			令和6年	令和5年度			
	区 分)	-tu-4-#-t	前年度	対比	油 <i>佐 姫</i>	مارا 4- #4
		決 算 額	構成比	増減額	増減率	決 算 額	構成比
	管 渠 費	9, 521	3.0%	_	_	_	_
	処理場管理費	8, 893	2.8%				_
営業	ポンプ場費	20, 066	6.4%				_
営業費用	総係費	71, 773	22.8%	_	_		_
	減価償却費	196, 985	62.6%	_	_		_
	合 計	307, 238	97.6%				_
営業	支払利息及び企業債取扱諸費	7, 120	2.3%		_	_	
営業外費用	雑支出	409	0.1%	_	_		
用用	合 計	7, 529	2.4%	_	_		_
特別損失	その他特別損失	5	0.0%				
損失	合 計	5	0.0%	_	_		_
	合 計	314, 772	100.0%	_	_	_	_

営業収益、営業外収益及び特別利益を合計した総収益は300,931 千円で、営業費用、営業外費用及び特別損失を合計した総費用は314,772 千円である。その結果、収支差引額△13,841 千円は不足額として当年度純損失となった。

①営業収益及び営業費用について

営業収益は 103,328 千円で総収益の 34.3%を占めている。営業費用は 307,238 千円で、 営業収益から営業費用を差し引いた営業利益は△203,910 千円となった。

営業収益の構成比は、下水道使用料のみとなり、100%となっている。一方、営業費用の構成比は、減価償却費が最も大きく、62.6%を占めており、次いで総係費が22.8%を占めている。

②営業外収益及び営業外費用について

営業外収益の合計は189,577 千円、総収益の63.0%で、営業外収益の内訳は、他会計補助金84,910 千円で、一般会計からの繰入が営業外収益の44.8%を占めている。

営業外費用は7,529 千円、総費用の2.4%で、営業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費が7,120 千円で営業外費用の94.6%を占めている。

この結果、営業外利益は、182,048千円となった。

③特別利益及び特別損失について

特別利益は8,026千円となった。これは、過年度損益修正益による令和5年度消費税申告分が還付となったことによるものである。

特別損失は、5千円となった。

(5) 財務について

本年度下水道事業会計の財務規模は4,431,619千円となった。

①資産の部 (運用)

【表6 比較貸借対照表(資産)】

(単位:千円)

120	2 20秋夏旧对杰弘	(文) (文) (中区:1							
		令和6年度				令和5年度			
	区 分	油 塔 栃	雄化い	前年度	対比		 # +		
		決 算 額	構成比	増減額	増減率	決 算 額	構成比		
	構築物	3, 762, 109	84. 9%	_	_	_	_		
固定	建設仮勘定	221, 031	5.0%	_	_				
固定資産	無形固定資産	377, 532	8.5%		_	_	_		
	固定資産計	4, 360, 672	98.4%	_	_				
	現金・預金	23, 632	0.6%	_	_	_	_		
流動	未 収 金	37, 006	0.8%	_	_				
流動資産	その他流動資産	10, 309	0.2%	_	_				
	流動資産計	70, 947	1.6%	_	_	_			
¥	資産合計	4, 431, 619	100.0%		_	_	_		

資産勘定では、固定資産の正味残高は 4,360,672 千円で構築物は主に管路施設である。 流動資産の 70,947 千円となった。

②有形固定資産の状況

【表7 有形固定資産の明細】

(単位:千円)

区		V(t-1 -1 -1 .	令和6年度						
	分	前年度末 残高	増加	減少	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高		
構	築物	3, 926, 243	16, 350	0	3, 942, 593	180, 484	3, 762, 109		
建設	设协定	0	0	0	0	△221, 030	221, 030		
合	計	3, 926, 243	16, 350	0	3, 942, 593	△40, 546	3, 983, 139		

本年度末の有形固定資産残高は 3,942,593 千円となった。減価償却累計額 △40,546 千円であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は △1.0%となっている。

③負債・資本の部 (調達)

【表8 比較貸借対照表(調達)】

(単位:千円)

				令和6年	令和5年度末			
	区	分	決算額	構成比	前年度対比		決算額	構成比
			(人) 异似	1冉/八八八	増減額	増減率	(人异似	1冉/八八八
		企 業 債	676, 951	15. 3%		—		
		固定負債合計	676, 951	15. 3%	_		_	_
		企 業 債	55, 021	1. 2%	_			
	流	未 払 金	42, 878	1.0%	_		_	
負	流動負債	引 当 金	435	0.0%	_		_	
負債の	債	その他流動負債	10, 309	0. 2%	_		_	
部		流動負債計	108, 643	2. 4%	_		_	
	繰	長期前受金	2, 323, 233	52. 4%	_		_	
	繰延収益	長期前受金収益化累計額	△ 99, 535	△2.2%	_	_	_	_
		繰延収益計	2, 223, 698	50. 2%	_		_	
	負債合計		3, 009, 292	67. 9%			_	_
		固有資本金	1, 435, 202	32. 4%		_	_	_
	\/ fi.c>	再評価組入資本金	0	0.0%		_	_	_
	資本金	繰入資本金	966	0.0%		_	_	_
資	亚.	組入資本金	0	0.0%		_	_	_
資本の		資本金計	1, 436, 168	32. 4%	_	_	_	
部	垂山	繰越利益剰余金	0	0.0%	_	_	_	
	剰余	当年度純利益	△13, 841	△0.3%		_	_	_
	金	剰 余 金 計	△ 13,841	△0.3%		_	_	_
	資本合計		1, 422, 327	32. 1%	_	_	_	_
1	負債・	資本の部合計	4, 431, 619	100.0%	_			

負債勘定では、固定負債で新規に下水道事業債 176,800 千円を発行したが、翌年度償還分 55,021 千円を流動負債に振り替えた。

下水道事業債は、前年度末残高 610, 411 千円 (固定負債 555, 172 千円、流動負債 55, 239 千円) に対して 176, 800 千円を発行し 55, 239 千円を償還したことから、本年度末残高は 731, 972 千円 (固定負債 676, 951 千円、流動負債 55, 021 千円) となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して1年以内支払い分を固定負債に 区分する1年会計基準により、令和7年度の起債予定額55,021千円を固定負債から振り 替え、企業債残高が、55,021 千円と 218 千円の減少、未払金が 42,878 千円、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が 435 千円となった。

繰延収益は固定資産取得に伴い、2,223,698千円となった。

資本の部では繰入資本金が966千円となり当年度純利益が△13,841千円となったことから当年度末未処理分利益余剰金(累積欠損金)は13,841千円となり資本合計は1,422,327千円となった。

5 審査意見

(1) 令和6年度の概況

令和6年度は、下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計が地方公営企業法の一部を適用し公営企業会計へ移行した初年度であり、事業の透明性や適正な料金設定、財政状況の把握を主な目的として企業会計へ移行している。

令和6年度は、流動負債に対する流動資産の割合である流動比率は65.3%であった。流動比率は財務状態を示す指標であり、100%を超えることが望ましいとされていることから、今後においては、留保資金が改善していけば、増加で推移していくものと推察される。

資本的収支においては、収入では企業債、他会計出資金及び国庫補助金の合計が290,794 千円で、支出では建設改良費及び企業債償還金の合計が373,548 千円となっており、収支 差が△82,754 千円となった。その財源は当年度損益勘定留保資金で補填されている状態で ある。

損益計算書においては、営業収益から営業費用を差し引いた営業利益は△203,910 千円で主に減価償却費等に対する現金の伴わない支出による営業費用の増が要因となっている。営業収益、営業外収益及び特別利益を合計した総収益から、営業費用、営業外費用及び特別損失を合計した総費用を指し引いた収支差引額は純利益△13,841 千円となっている。

(2) 審査意見の総括

令和6年度南幌町下水道事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに付属書類は関係諸 帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示 していると認められる。

下水道事業は、町民の衛生的な生活を維持するため、重要なインフラであり、安定的で持続的な事業経営が求められる。

令和7年度に南幌町下水道事業経営戦略が見直しされる予定で、将来的にその経営戦略に基づく健全かつ持続的な下水道事業経営が行われることを望む。